

(当院の外来化学療法センターでオキサリプラチン治療を受けられた患者様方へ)

外来化学療法センターにおける オキサリプラチンの治療に関する調査研究についてのお願い

外来化学療法センター 看護師 吉田美緒

平素から、皆様には外来化学療法センターをご利用いただきありがとうございます。

今回、外来化学療法センターでは、オキサリプラチンの副作用症状（急性末梢神経障害：しびれやこわばりなど）について調査研究を行い、関連学会でその結果について発表することを考えております。つきましては、下記に研究概要を示しております。

調査研究は、患者様のプライバシーを厳守し、個人が特定できないように致します。もし、対象となられる方で、研究内容に異議や疑問等がありましたら、下記の連絡先までご連絡いただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

【研究テーマ】

「当院の外来化学療法センターにおけるオキサリプラチンの急性末梢神経障害の現状」

1. 研究目的

当院の外来化学療法センターでは、昨年頃からオキサリプラチンの治療後に一時的に歩行が困難になる事例が増加しました。オキサリプラチンの副作用には末梢神経障害がありますが、治療後1～2日以内に生じ、14日以内に回復する急性の末梢神経障害と14日以上持続する慢性の末梢神経障害が報告されています。文献検索の結果、これまで急性末梢神経障害による転倒転落のリスクに着目した報告はありませんでした。そこで今回、当院の外来化学療法センターにおけるオキサリプラチンの急性末梢神経障害の発生頻度や、関連因子を明らかにし、オキサリプラチンの治療を行う患者様の治療中や帰宅中、もしくは自宅での転倒防止につなげていきたいと考えております。

2. 研究方法

当院の外来化学療法センターでオキサリプラチンを含む治療を受けた患者様の電子カルテから、治療法、投与方法、年齢、性別、がん腫、症状（末梢神経障害含む）、症状の回復時期をデータとして抽出し、急性末梢神経障害による歩行困難の出現割合、オキサリプラチンを含む治療により歩行困難を初めて自覚したクール数、1回投与量別の急性末梢神経障害による歩行困難が出現した割合について検討します。

3. 調査の対象となる患者様

平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間に当院の外来化学療法センターでオキサリプラチンを含む治療を受けた患者様。

4. 研究の倫理的配慮

調査結果は、個人が特定できないように患者様のプライバシーを厳守します。対象となる患者様の治療法、投与方法、年齢、性別、がん腫、症状（末梢神経障害含む）、症状の回復時期の情報のみ示して個人が特定できる情報は記述しません。

5. 利益相反について

本研究に携わる全研究者と本研究の対象となる治療内容と関連する企業とは、本研究は無関係に公正に行われます。また、本研究の利害関係については、熊本大学大学院生命科学研究部等研究倫理委員会の承認を得ております。

(研究責任者名) 外来化学療法センター 看護師 吉田 美緒
(研究担当者名) 外来化学療法センター 看護師 別府 奈見
外来化学療法センター 副看護師長 森 奈緒美
緩和ケアセンター 看護師長 岡本 泰子

(連絡先) 熊本大学医学部附属病院 外来化学療法センター 研究担当者 吉田美緒 電話番号 096-373-5640
